

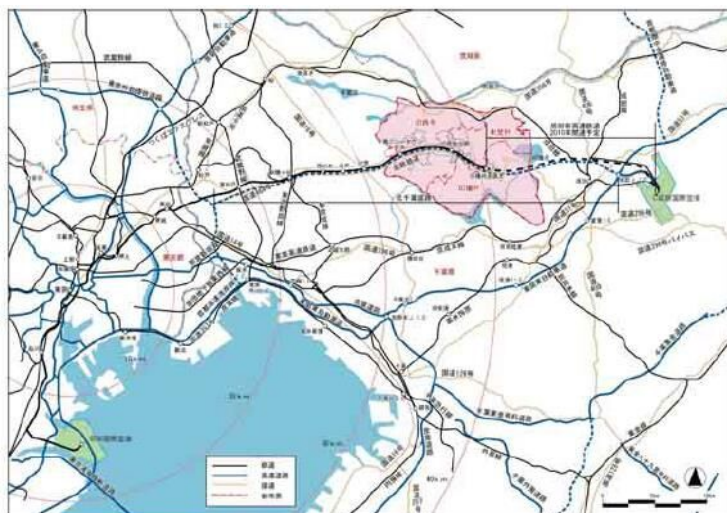
◆印西市の現状と課題

a. 印西市、印旛村及び本埜村の合併により誕生した新印西市としての歴史・文化の共有と新たな市民アイデンティティの確立が必要である。

- ① 印西市、印旛村及び本埜村の合併により、平成 22 年 3 月 23 日に新しい印西市が誕生した。千葉ニュータウンという共通の財産と豊かな自然や先人たちが築き上げた伝統文化など地域の宝を活かし、新市の将来像「ひと まち 自然 活気と希望あふれる北総の中核都市」を目指す。

出典：市 HP

【位置図】



出典：「印西市・印旛村・本埜村新市基本計画」平成 21 年 7 月

- ② 印西市総合計画で示された将来都市像「ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい」の実現に向け、新たな印西市史編さん事業の基本方針を以下のように策定した。

【市史編さんの目的】

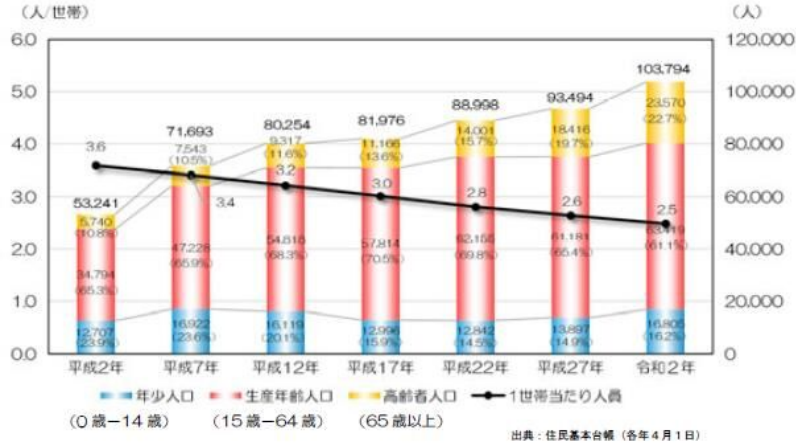
- (1) 市域に関する歴史の変遷を学術的かつ系統的に記述した市史の刊行により、郷土に対する理解と関心を深め、市民のふるさと意識の醸成を図る。
- (2) 市域に関する歴史、自然及び伝統文化をあらためて掘り起こすことにより、印西市の発展と文化の向上に寄与するとともに、市民主体のまちづくりに役立てる。
- (3) 市域に関する人々の諸活動を記録した地域史料を次世代に引き継いでいくため、公文書の移管や古文書等の調査収集を行い、適正な保存に努めるとともに活用を図る。

出典：「印西市市史編さん事業基本方針（案）」平成 30 年 2 月

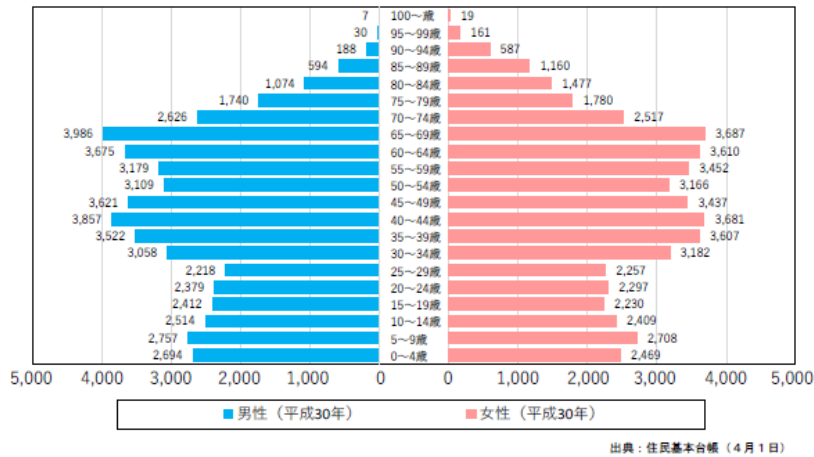
b. 流入人口の増加により、多様な歴史・文化的背景を持つ市民の郷土意識の涵養が求められている。

- ① 総人口は増加傾向にあり、千葉ニュータウン事業収束前の集中的な開発に伴い、特に子育て世代の割合が増加している。

【印西市の年齢3区分別人口と世帯あたり人員】



【印西市の平成30年の人口ピラミッド】



出典: 「印西市都市マスタープラン」令和3年3月

- ② 転入超過数が多く、平成26年の千葉ニュータウン事業計画終了後も転入超過が続いている。

【印西市の人口動態】

(各年1月1日現在)

年	社会動態			自然動態		
	転入	転出	増加数	出生	死亡	増加数
平成24(2012)	4,456	3,972	484	719	613	106
25(2013)	5,448	3,962	1,486	762	674	88
26(2014)	4,327	4,030	297	746	663	83
27(2015)	5,245	3,960	1,285	698	680	18
28(2016)	6,136	3,969	2,167	768	712	56
29(2017)	5,851	3,954	1,897	859	733	126
30(2018)	6,494	4,588	1,906	908	770	138
31(2019)	7,179	5,038	2,141	827	762	65
令和2(2020)	6,294	4,160	2,134	868	772	96
3(2021)	5,354	3,587	1,767	891	742	149

※平成30年以降は、千葉県毎月常住人口調査月報参考表より集計。
※「その他の増減数」を除く。

資料: 千葉県毎月常住人口調査

出典: 印西市統計書「データいんざい2021」

- ③ 平成 23 年から令和 2 年の約 10 年間で、総人口に占める外国人の割合は 2 倍以上となり、総人口の増加を上回る勢いで、外国人の人数が増加している。

【印西市における外国人数と総人口数の推移】

表 1-図 2 外国人人口等の推移

(単位：人、各年 3 月 31 日現在)

	2006 年 (H18)	2011 年 (H23)	2016 年 (H28)	2017 年 (H29)	2018 年 (H30)	2019 年 (R1)	2020 年 (R2)
外国人数	843	1,084	1,340	1,528	1,733	2,054	2,394
総人口数	82,757	90,529	95,185	97,321	99,133	101,406	103,794
外国人の割合	1.02%	1.20%	1.41%	1.57%	1.75%	2.03%	2.31%

※2006 年の数値は合併前の旧印旛村、旧本碁村の人口も合わせたもの

※表 1 以下、図表の数値データは住民基本台帳に基づく。

出典：「印西市国際化推進方針 Ver.3.0」令和 3 年 3 月

- ④ 印西市総合計画では歴史・文化の保護・活用と芸術文化の振興にあたり、取組の方向性を以下のように定めている。

【計画期間中の取組の方向性】

市民の豊かな心や地域に対する関心の醸成を図るため、自主的な文化・芸術活動を積極的に支援します。また、市民が様々な文化や芸術に触れることができる取組を進めます。

さらに、本市の歴史や文化財は、先人の残した文化遺産であり、その価値や意義を踏まえ、次世代に適切に継承していくため、市民の郷土意識の涵養を図り、本市に残る各種の有形・無形文化財、埋蔵文化財、地域史料の保護や保存及び活用を進めていきます。

出典：「印西市総合計画」令和 3 年 3 月

※ 次年度に実施予定の市民意識調査で、印西市への愛着やふるさと意識を把握予定。

c. 地域の歴史・文化的な地域景観や歴史文化資源の継承と、これらを活かしたまちづくりの推進、観光資源としての活用が求められている。

- ① 市内には国指定文化財が6件、県指定文化財が17件、市指定文化財が26件、国登録文化財が1件の計50件の指定・登録文化財がある。

【国指定文化財】

登録種別	名称	所在地	登録年
有形・建造物	宝珠院観音堂	印西市小倉 1138	昭和9年1月30日
有形・建造物	泉福寺薬師堂	印西市岩戸 1671	昭和52年6月27日
有形・建造物	栄福寺薬師堂	印西市角田 2	昭和29年9月17日
有形・彫刻	銅造不動明王立像	印西市結縁寺 516	大正3年4月17日
有形・彫刻	木造薬師如来坐像、木造薬師如来立像（七仏薬師）	印西市松虫 7	昭和34年6月27日
記念物・天然記念物	木下貝層	印西市木下 1944 ほか	平成14年3月19日

【県指定文化財】

登録種別	名称	所在地	登録年
有形・彫刻	木造毘沙門天及び両脇侍立像	印西市松崎 396	昭和29年3月31日
有形・彫刻	木造延命地藏菩薩坐像	印西市和泉 971	昭和30年12月15日
有形・彫刻	銅造十一面観音立像	印西市木下 777	平成6年2月22日
有形・彫刻	木造地藏菩薩立像	印西市別所 1005	平成7年3月14日
有形・彫刻	木造不動明王立像及び毘沙門天立像	印西市小林 1615	平成25年3月1日
有形・彫刻	木造薬師如来坐像	印西市平賀 2146	昭和42年3月7日
有形・彫刻	木造金剛力士像	印西市滝 1009	平成3年2月15日
有形・工芸品	梵鐘・応安二年在銘	印西市大森 2034-1	昭和47年9月29日
有形・工芸品	鑄銅孔雀文磬	印西市松虫 7	昭和60年3月8日
有形・工芸品	梵鐘	印西市竜腹寺 626	昭和47年1月28日
有形・工芸品	梵鐘・建武五年在銘	印西市滝 1009	昭和47年1月28日
有形・考古資料	馬込遺跡出土瓦塔	印西市木下 1489-1	平成20年3月18日
民俗・有形民俗文化財	押付の水塚	印西市押付地先	昭和53年2月28日
民俗・無形民俗文化財	鳥見神社の獅子舞	印西市平岡 1476	昭和30年12月15日
民俗・無形民俗文化財	浦部の神楽	印西市浦部 2125	昭和42年12月22日
民俗・無形民俗文化財	鳥見神社の神楽	印西市中根 1339	昭和36年6月9日
記念物・天然記念物	将監のオニバス発生地	印西市将監地先	昭和52年3月8日

【市指定文化財】

登録種別	名称	所在地	登録年
有形・歴史資料	弥陀一尊武蔵型板碑	印西市浦部 1978-1	昭和 57 年 8 月 5 日
有形・歴史資料	弥陀三尊下総型板碑	印西市小林 1841	昭和 57 年 8 月 5 日
有形・歴史資料	板石塔婆	印西市吉高 533-1-2	昭和 51 年 6 月 1 日
有形・歴史資料	板石塔婆	印西市岩戸 1742	平成 3 年 5 月 8 日
有形・彫刻	福聚院阿弥陀三尊立像	印西市中根 1378	平成 5 年 6 月 22 日
有形・彫刻	薬師如来立像	印西市滝 1008-1	平成 22 年 2 月 19 日
有形・工芸品	鋳銅鰐口	印西市竹袋 141	昭和 54 年 9 月 10 日
有形・工芸品	観音寺鋳造鰐口	印西市浦部 1978-1	昭和 57 年 8 月 5 日
有形・工芸品	鋳銅鰐口	印西市松虫 7	昭和 51 年 6 月 1 日
有形・工芸品	曼荼羅掛軸	印西市笠神 725	昭和 54 年 5 月 28 日
有形・工芸品	龍湖寺絵馬	印西市物木 213	平成 5 年 6 月 22 日
有形・古文書	吉岡家河岸関係文書	印西市木下地先	平成 3 年 6 月 4 日
有形・考古資料	常滑の大壺	印西市岩戸 1742	昭和 51 年 6 月 1 日
有形・歴史資料	小金牧鹿狩資料「村小旗」	印西市木下 1489-1	平成 3 年 6 月 4 日
有形・歴史資料	高札（五榜の掲示）	印西市酒直ト杭地先	平成 17 年 7 月 6 日
民俗・無形民俗文化財	別所の獅子舞	印西市別所 1005	昭和 41 年 4 月 19 日
民俗・無形民俗文化財	いなざき獅子舞	印西市和泉 622	昭和 41 年 4 月 19 日
民俗・無形民俗文化財	八幡神社の獅子舞	印西市中根 1092	昭和 49 年 4 月 1 日
記念物・史跡	月影の井	印西市浦部 1261-2	昭和 43 年 4 月 25 日
記念物・史跡	上宿古墳	印西市大森 2346-2	昭和 48 年 1 月 19 日
記念物・史跡	武西の百庚申塚	印西市武西 1183-2、 1184-2	平成 11 年 3 月 25 日
記念物・史跡	泉新田大木戸野馬堀遺跡	印西市草深 1878-1、泉 70-10	平成 17 年 8 月 16 日
記念物・史跡	道作古墳群（道作 1 号墳、4 号 墳、5 号墳）	印西市小林字馬場 2826-1	平成 26 年 3 月 24 日
記念物・史跡	掩体壕（えんたいごう）	印西市東の原 3-108	平成 28 年 9 月 23 日
記念物・天然記念物	吉高の大桜	印西市吉高 930-1-1	昭和 56 年 10 月 15 日
記念物・天然記念物	藤の木	印西市中根地先	昭和 54 年 5 月 28 日

【国登録文化財】

登録種別	名称	所在地	登録年
有形・建造物	岩井家住宅主屋（旧武蔵屋店 舗）	印西市木下 1645	平成 19 年 12 月 5 日

- ②「印西市都市マスタープラン」の策定に際して行われた市民アンケート調査では、都市の将来イメージとして、「歴史を感じる」は5.3%、「ふるさとを感じる」は7.0%となった。

市民アンケート調査の結果や印西市の現況等をふまえた都市づくりの主な課題として、歴史・文化的な資源の活用が挙げられている。

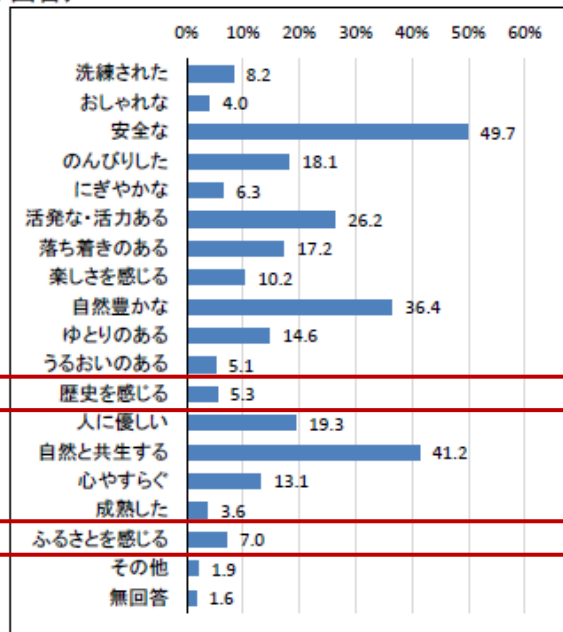
【都市の将来イメージ】（選択肢を3つまで選び回答）

<将来のまちづくりに対する意向・考え>

◆都市の将来イメージ(選択肢を3つまで選び回答)

【市全体のイメージ】

市全体の将来イメージは、「安全な」が49.7%で最も多く、「自然と共生する」の41.2%、「自然豊かな」の36.4%、「活発な・活力ある」の26.2%が続いています。このことから、将来のイメージは『安全』、『自然との共生』、『活力』などがキーワードになるものと考えられます。



【1-3 都市づくりの主な課題 景観形成】

◆歴史・文化的な資源の活用

- ・本市の財産である歴史・文化的な景観資源を活かしたまちづくりや観光誘客を推進していく必要があります。

出典：「印西市都市マスタープラン」令和3年3月

d. 人口減少や少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の流行などによる社会の転換期において、市民がより活動しやすい環境づくりに対する市民ニーズが高まっている。

- ① 「印西市総合計画」では市政への参加と地域活動の推進にあたり、取組の方向性を以下のように定めている。

【計画期間中の取組の方向性（部分）】

様々な活動を実施している市民活動団体に対し、情報提供、団体間の交流、連携のコーディネートなど、個人や団体の関心事や活動内容に応じた支援を行い、活動の充実、活性化を推進します。

出典：「印西市総合計画」令和3年3月

- ② 近年、全国的な人口減少や少子高齢化を背景に、人びとが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりへ移行しつつある。

印西市においても令和10年以降は、人口減少や少子高齢化へゆるやかに向かっていくことが予想されている。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行による、人びとの生活様式の変化に対応したまちづくりも求められる。

こうした社会情勢の変化を背景に、「印西市都市マスタープラン」では都市づくりの基本理念として、市民等が多様なライフスタイルを実現できる都市を目指し「①地域の魅力が輝くまちづくり」、「②みんながつながるネットワーク」による「快適で、魅力的、持続的に発展する都市」を掲げている。

【1-3 都市づくりの主な課題 都市施設】

◆人口構成バランスの変化などに応じた公共施設の整理統合・維持管理

・将来的な公共施設の更新などに要する費用の増大に対応するとともに、公共施設の有効利用及び機能向上を図るため、「印西市公共施設適正配置アクションプラン」に基づき公共施設の集約化・複合化などを検討する必要があります。

出典：「印西市都市マスタープラン」令和3年3月

- ③ 「印西市の公共施設に関する市民アンケート」では、子育て支援施設の施設量について「もっと多い方が良い」とする回答が多く、全ての施設分類（市民文化系施設、社会教育系施設、スポーツ・レクリエーション施設、子育て支援施設、保険・福祉施設、行政系施設（市役所庁舎）、行政系施設（支所・出張所））のなかで、最も多い結果となった。

出典：「印西市の公共施設に関する市民アンケート」平成28年6月

※ 次年度に実施予定の市民意識調査で、歴史文化に関わる活動へのニーズを把握予定。

e. 生涯学習施設に対するサービスの維持・向上が求められている

- ① 「印西市の公共施設に関する市民アンケート」では、社会教育系施設のサービス内容の満足度と施設存続の優先度は、ともに平均値より高い値となった。現状のサービス水準を維持しつつも、さらなる向上が求められている。

【施設分類毎の集計結果】

施設分類	社会教育系施設	対象者数	706人
①施設量			
<p>○71%の方が「ちょうど良い」と回答されています。また、18%の方が「もっと多いほうが良い」と回答されています。</p>		<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ ちょうど良い ■ もっと少なくてもよい ■ もっと多いほうが良い ■ 悪くてもよい ■ どちらともいえない ■ 無回答</p>	
②主な交通手段毎の所要時間			
<p>○多くの施設利用者の所要時間は「15分未満」です。○「バス・コミュニティバス」で来館される方の所要時間は、「15～30分未満」もしくは「30～60分未満」が最も多くを占めています。</p>		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■ 15分未満 ■ 15～30分未満 ■ 30～60分未満 ■ 60分以上 ■ 無回答</p>	
③統廃合による交通手段への影響			
<p>○「距離が遠くなっても構わない」「公共交通機関等が充実できれば利用できる」「駐車場が広げれば利用できる」の合計が6割台半ばを超えています。</p>		<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 距離が遠くなっても構わない ■ 公共交通機関等が充実できれば利用できる ■ 駐車場が広げれば利用できる ■ たまにしか利用しない施設なら構わない ■ 非常に困る ■ わからない ■ 無回答</p>	
④総合的、長期的な保全・活用方策			
<p>○「3：民間ノウハウ・資金活用に関する方策（89%）」が、最も多くの方の賛同を得ています。○「7：使用料金の引き上げに関する方策（38%）」「9：施設運営費の財源の見直しに関する方策（39%）」については、特に低い結果となっています。</p>		<p>図策1 (64%) 経費削減による施設数削減 図策2 (37%) 急の対応、ハードの更新 図策3 (67%) 地域と連携した利用 図策4 (39%) 施設の複合的な活用 図策5 (42%) 施設数削減の柔軟化 図策6 (46%) 地域住民による管理運営 図策7 (37%) 民間ノウハウ・資金活用 図策8 (38%) 使用料金の引き上げ 図策9 (39%) 施設運営費の財源の見直し</p>	
⑤サービス内容(満足度)と優先度の関係			
<p>○「満足度も優先度も高い」領域に位置しています。現状のサービス水準を維持する事が期待されると言えます。</p>		<p>0.0 0.2 0.4 0.6 0.8 1.0</p> <p>0.0 0.2 0.4 0.6 0.8 1.0</p>	

出典：「印西市の公共施設に関する市民アンケート」平成28年6月

※ 次年度に実施予定の市民意識調査で、世代ごとの学習機会に対するニーズを把握予定。

f. 歴史資料の整理及びデジタル化を進め、多様な方法で資料にアクセスできる環境整備が必要とされている。

- ① 印西市は歴史や文化財、自然が豊かな地域であり、これらを保護・保存・活用した取組を一層進めていく必要がある。また、歴史資料の整理及びデジタル化を進め、多様な方法で資料にアクセスできる環境整備が求められている。

出典：「印西市総合計画」令和3年3月

- ② 「印西市総合計画」で掲げる都市像「住みよさ実感都市 ずっと このまち いんざいで」の実現を ICT の側面から支援するために、以下のようなビジョンを掲げている。

【DX 推進ビジョン】

1 市民の利便性向上

(3) 市からの情報提供方法の見直しと拡充

市の提供する情報提供方法の見直しや、SNS 等の活用により、必要な情報を得やすい環境を追求します。

(4) 自宅で利用できるサービスの拡充

自宅で受けられる行政サービスを拡充します。

3 市の魅力向上

(1) デジタルツールを活用した移住・定住促進及び観光振興

SNS・ICT ツールを活用して、市民と情報の共有や、市内の企業・団体・商工会等と連携し、PR・イベント等を積極的に行い、市への移住・定住を促進します。

出典：「印西市 DX 推進方針」令和4年4月

- ③ 令和2年8月、デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）の方針のもと、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携した国の分野横断型統合ポータル「ジャパンサーチ」が公開された。

国の文化機関をはじめ、図書館、博物館・美術館、地方自治体や大学など、幅広い機関の連携により、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームである。

デジタルアーカイブは、文化の保存・継承・発信だけでなく、観光や地方創生、教育研究、ビジネスへの利用など、新たな価値創出やイノベーション推進にも役立てることを目的とした取組であり、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、リモートで活用できるデジタルコンテンツへの需要が特に高まっている。

ジャパンサーチを通して、コンテンツの所在を明らかにし、国内のデジタル情報資源が効率的に発見され、国全体として有効活用されることを目指している。

出典：「ジャパンサーチの概要と連携方法のご案内」令和2年3月

- ④ 社会情勢の変化に伴い博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、博物館等の事業等を見直す改正博物館法が成立（2022年4月8日改正）。

博物館の事業に博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光等の活動を図り地域活力の向上に取り組むことを努力義務とした。

出典：「博物館法の一部を改正する法律（令和4年法律第24号）」令和4年4月